

## 「展示リニューアル基本設計（中間案）」に対するご意見について

No.	ご意見の概要	基本設計（素案）との関連
1	エントランスの活用については、アイデア1「台原森林公園と科学館をつなぐガイダンス展示」を実現してほしい。	p.6 実現に向けて実施設計を行う。
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エリア1「宮城・仙台の自然」については生物と地学を分けずに、融合した展示がよいのではないかと。例えば、時間軸と空間軸の両軸で並べることができるのではないかと。</li> <li>・物理・化学・生物・地学の4分野が分かれているものと捉えるのではなく、融合を考慮するとよい。</li> </ul>	<p>p.7-p.21</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生物と地学を融合した形で時間軸と空間軸を考慮した設計を行う。「大地の記憶」「発見の小径」の両方に生物と地学の要素が入る。</li> <li>・物理、化学についても必然的に他の分野と融合した形の展示が入る。意図的な切り分けは考えていない。</li> <li>・既存の展示を活用しながら、来館者により分かりやすく提供できるように設計する。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エリア1の大地の記憶について。数千年、1億年という時間のスケールは、小学生には難しい。例えば仙台の地史と現在の地形や環境を取り上げた方が、子どもには理解しやすいのではないかと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間軸については、子どもが理解できるよう工夫を図る。（p.12-14宮城・仙台クロニクルも含め実施設計に盛り込む）</li> <li>・仙台の地史、地形や生物環境については「大地の記憶」と「発見の小径」p.15-21の両方で扱う。</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エリア3「くらしと科学」のレイアウトについて。『これから』の展示をどのように設置するか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ p.60-68 レイアウト変更</li> </ul>

## 「展示リニューアル基本設計（中間案）」に対するご意見について

No.	ご意見の概要	基本設計（素案）との関連
1	エントランスにもタイトルがあると良い	「ディスカブラリー」で進めている。
2	エントランスのアイデア1を進めてほしい。その際、観察デッキの有効活用を検討してはどうか。	p.6 台原森林公園の植物や野鳥等を観察するための双眼鏡を設置する方向で検討を進める。
3	エリア1のネイチャービューアに展示するアクリル標本は、その特性を活かし全方位から観察可能となる工夫がほしい。	アクリル標本の特性を活かすよう実施設計に盛り込む。
4	エリア1のネイチャービューアの標本テーブルについて。標本の点数は膨大であるため、精選のうえ、プランの工夫が必要と考える。	実施設計において精選、工夫し盛り込む。
5	エリア1に「生命のしくみ」「生命のつくり」等の表記があるが具体の展示方針はどのようなものか。	遺伝の規則性と遺伝子、生物の種類と多様性と進化、生物と環境、生物と細胞、成長と殖え方等を解説する映像展示を検討している。
6	エリア1の発見の小径は山地から海にかけて高低差を実感できる工夫があるとよい。	p.19 「広瀬川スカイアドベンチャー」 広瀬川を上流から下流まで上空から見渡すことができる体験型アクション映像を展示。
7	エリア2のサイエンストレーニングラボは更新の目玉となる。運用に当たっての各種検証、破損やトラブル回避に向けた工夫が必要と考える。	十分検討を重ね進めたい。
8	エリア3のくらしと科学について。「これから」だけでなく「いま」の展示も更新性が高いものに。	どちらも1、2年に1回アップデートできるようなものを想定している。
9	エリア4のサイエンススポットライトの内容は支持するが、多くの要素があるためフロアバランスの工夫が必要と思われる。	十分検討を重ね進めたい。
10	展示装置解説の仕組み（学習サポートデバイス）は、「物理」「化学」の展示に多く取り入れたい。	その方向で実施設計に盛り込む。